ファイナリスト紹介

一次審査、二次審査を勝ち抜いたファイナリストが自身のビジネスプランを熱く語ります！

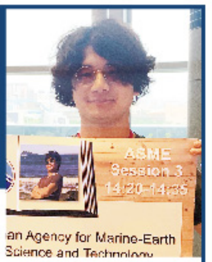
No.1 世界初 花酵母を用いた新感覚低アルコールカクテルブランド『Hanabi』

渡邉 優翔 わたなべ ゆうと

Ichido株式会社　代表取締役

須賀川市の実家「大桑原つつじ園」の26代目当主。「家業を助けたい」「花農家の明るい未来を作っていきたい」という思いで、2022年6月にIchido株式会社を設立。花酵母を使用したお酒造りに取り組んでいる。「花の新たな価値を創出するとともに、花産業に新たな風を吹かせるビジネスとして全国に拡大させていきたい」と柔和な表情に強い決意をにじませる。

No.2 研究者向けのビジネスSNSを活用した産学連携で、福島の復興を！



熊谷 洋平 くまがい ようへい

株式会社tayo　代表取締役

深海微生物学者として研究する傍ら、2019年5月に株式会社tayoを設立。研究者や大学院生の就職・転職・インターンを仲介するサービスをスタートさせた。サービスは現在、登録者が2,500人を超え、国内外の80以上の大学の若手研究者、教員などに利用されている。父親が東京電力福島第一原発で働いていたことを縁と感じており、「福島の復興に貢献できるビジネスにしていく」と意気込む。

No.3 伊達じゃない！ホットなDATEニット♡

高橋 彩水 たかはし あやみ

株式会社ラニット　代表取締役

制作するニットは、卓越したデザインと技術でアパレル業界や芸能界などからも注目を集め、受賞歴も多い。アパレルメーカーでの企画販売を経て、ニット製品製造のため2011年2月に川俣町に帰郷。ニット産地からファッションブランドを立ち上げて6年、今年の7月に法人化した。「『アパレル系ベンチャー企業』として、世界にニットの魅力を発信する」と誓う。

No.4 猪苗代湖の悪役をヒーローに！？～湖の厄介者を観光資源に転換～

長友 海夢 ながとも ひろむ

株式会社いなびし　代表取締役

2022年7月に猪苗代町で『株式会社いなびし』を設立した。猪苗代湖で水質汚濁の要因として知られる水草『菱』の種を活用し、『猪苗代湖産ひし茶』の商品化に成功した。湖の厄介者を観光資源に転換し、新たな地域産業を創出することにより、持続可能な水環境保全事業の構築を目指し挑戦中。「若い世代に福島での起業の可能性を示したい」と力強く語る。

No.5 インフラに依存しない自立型水洗トイレ（ロハスのトイレ）の社会実装

中野 和典 なかの かずのり

日本大学 工学部　教授

仙台市で東日本大震災に遭った。震災の影響で、トイレの水洗が使えなくなり、多くの市民が苦労しているのを目の当たりにした。その経験から、インフラに依存しない自立型水洗トイレ（ロハスのトイレ）を開発しようと、「株式会社e6s（エシックス）」を創業。ロハスのトイレの開発に取り組んできた。「災害時だけでなく、発展途上国、国立公園のトイレの在り方を変えていく」と将来のビジョンを描く。

No.6 地域密着型店舗『衣食住車』全てに特化した街づくり

斎藤 なつみ さいとう なつみ

Automobile store Anu　代表

生まれも育ちも福島市。4歳の息子を育てるシングルマザー。「四駆車が大好き」と就職した自動車業界での経験を生かし、2021年8月にAutomobile store Anuを設立。使う人の目線に立った移動販売車の制作を手掛ける。「さまざまな用途で活躍する移動販売車を生み出し、その魅力で地元に賑わいを創出していく」と言葉に力を込める。

No.7 植物廃棄物等から、プラスチック原料（セルロース）等を抽出し、SDGsを実現

沖村 智 おきむら さとし

トレ食株式会社　代表取締役

「災害のあった地域で地方創生できるビジネスを」という使命を持ち、2018年に株式会社トレ食を創業。2019年からは本拠地を南相馬市に移し、本格的に事業を開始した。さまざまな挫折を繰り返しながら、プラスチック原料（セルロース）を植物から効率的に抽出する技術を確立。さらに、大量生産型の試作機も完成した。「この技術を生かして、世界を変える」。さらなる高みを目指す。

No.8 コーヒーをさらにサステナブルに。小さな焙煎所から始まり紡いでいくコーヒーの物語

坪井 敦 つぼい あつし

珈琲焙煎所ぼうし　オーナー

いわき市のJR常磐線植田駅前で、品質と鮮度にこだわった自家焙煎珈琲豆を販売する。コーヒーの魅力を伝える一方で、コーヒー関連の廃棄物を再利用した商品の開発も手掛ける。2022年、サステナブルアクションとしてのブランド「ONSC（オンスコ）」を立ち上げ、物販商品の開発、販売を行う。「小さな焙煎所から始まる新たなストーリー作りに興味を持ってくれたらうれしい」と笑みをこぼす。

No.9 福島県の山林を世界に通用する価値ある山林にすべく、民間による植栽活動を推進するプロジェクト

根本 昌明 ねもと まさあき

一般社団法人モクティ倶楽部　代表理事

2021年9月に、一般社団法人モクティ倶楽部を設立。販売による賦課金協賛を財源に、福島県の森林の再造林活動を進めている。東京電力福島第一原発事故による風評被害を払拭し、世界に通用する森林にすべく、環境保全などで適切な森林管理を認証する森林管理協議会（FSC）の認証取得に向けて活動する。福島県の人工林の未来のために植栽なども続けている。「世界に通用する『ふくしまモデルの森林活動』を作り上げる」と思いを強くする。

過年度最優秀者プレゼン

過去に最優秀賞を受賞した2人が、本アワードへ申し込んだきっかけや、受賞実績がどのように事業に活かされているのか等についてプレゼンします。

【2019年度最優秀賞】
あだたらのちち株式会社
代表取締役　**千葉 清美** 氏

【2020年度最優秀賞】
株式会社リビングロボット
代表取締役社長　**川内 康裕** 氏

審査員紹介

藤井 靖史 氏
西会津町CDO
（デジタル最高責任者）

酒井 良信 氏
株式会社エフコム
ホールディングス
代表取締役社長
株式会社エディソン
ホールディングス
代表取締役社長

福留 秀基 氏
スパークル株式会社
代表取締役

石山 純恵 氏
株式会社クリフ
代表取締役

小村 幸男 氏
独立行政法人
中小企業基盤整備機構
東北本部
企業支援部長

油川 一義 氏
東北経済産業局
地域経済部
産業技術革新課長

小松 利顕 氏
福島県　商工労働部
産業振興課長